

平成30年度 四日市市環境活動賞 受賞者

グリーンパトロール

●表彰活動の内容

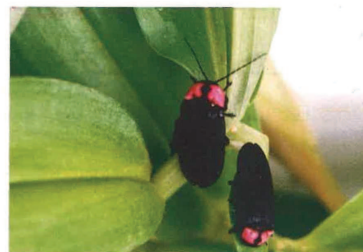
内部地区のみどり豊かな自然と里山に飛び交うホタルを守り・育てていくために、以下の課題について一つひとつ取り組みを進めてきた。

- ①内部地区でホタルの保全にあっていた地区・人を中心に「内部ホタルを育てる会」を組織化し、ホタルが生息する5つの地区に「ホタルの会」が作られる。
- ②各地区のホタルを守っていくためには、生息地の住民の理解や協力が必要であり、各地区の子供会や自治会の協力を得て、毎年ホタル観察会を行う。
- ③ホタルを守り・育てていくためには、ホタルのことをよく勉強し、力をつけなければなりません。具体的には、内部地区でホタルがどのような生活をしているかを調べ、勉強することです。幼虫の上陸、蛹化、ホタルの羽化、ホタルの飛翔数等、ホタルの生態調査に毎年強化しました。
- ④次の課題は、内部地区の自然とホタルを将来にも渡って守ってゆくのは誰か。私たちでは出来ないことである。それは現在の内部の子供たちにゆだねる以外にないとの結論に達しました。その結論から、現在進めている小学校（3年生）のホタルのパネル展示とホタル教室（教育）への取り組みとなっています。
- ⑤もう一つの取り組みは、内部地区でホタルが生息する環境はどのようにしてつくられているか、水田耕作（農業）により生態系が守られていることです。農業が地域で果たす役割は①食料確保②環境保全③防災④多様な生き物がいかされている⑤私たちの生活が癒される。農業（生態系）を理解するために、環境未来館と「親子田んぼ体験」の取り組みを行う。内部地区の小学校では、田植え体験とホタル観察は必ず勉強して卒業するというもの。

以上、内部地区で自然保護と環境対策に力を注いできました。

●活動の目的

内部地区のみどり豊かな自然と 里山に飛び交うホタルを守り・育てて行くことを目的とします。



内部地区に生息するゲンジボタル



田んぼで育つヘイケボタル

●活動の内容(詳細)

<平成30年度の活動報告>

- ①ホタルの生態調査（4～6月）
毎年4月上旬のゲンジボタルの幼虫の上陸から、6月のホタル羽化まで調査を行う。具体的には、3月20日から6月30日まで毎日気温・水温・地温の3つを測定し、ホタルの動向を観察。
- ②小学校のホタル教室（4～6月）
4～6月の3ヶ月間小学校（内部・内部東小学校）でホタルのパネル展示と3年生を対象としたホタル教室を行う。（内部小は5月31日、内部東小学校は5月29日）
ホタル教室後、子供たちはさらにホタル学習を深め「ホタル新聞」を作成したり、ホタルのおじさんへの「お礼の手紙」も書いている。
- ③各地区でホタル観察会を実施（5月26日～6月3日）
毎年5つのホタル生息地で観察会を行う。今年はホタルの発生も多く、どこの観察会も子供達の歓喜に湧いた。内部地区以外の参加者も増えている。
- ④内部東小学校のトンボ池の修復とホタル池作りの取り組み
トンボ池は当初は13種類がいたが、現在はオオシオカラトンボのみ生息している。学校からトンボ池の修復とホタルが飛び交う池を作ってほしいとの要望があり、今年から挑戦。7月・8月にとんぼ池の草刈りととんぼ調査を実施する。秋からはホタル池作りととんぼ池の拡張の作業に入る。冬場にはイノシシ対策の策作りを行う。
- ⑤11月20日秋のホタル報告会 一年間の活動をまとめ報告会を行うもの

●経歴(概要)

- 平成20年に采女が丘団地の退職者を中心に、13名でグリーンパトロールを発足させる。自治会・住民が行わない、団地内のメイン道路や外周道路、そして、1丁目から5丁目までの公園の剪定・整備を行い、美しい街づくりに努力する。
- 平成21～26年までは「個性ある街づくり」に応募し、団地内のインフラ整備に力を入れる。
- 平成28年より現在まで「花と緑いっぱい事業」に応募し、公園づくりや花壇づくり等に挑戦する。
- 平成25年～現在まで、子供会と一緒に自然（里山）教室を行い、ドングリ教室・クリスマスリース作り等と団地の周辺にいるホタルの観察会を行う。
ホタルについては、市民センターの要請で内部地区のホタルの保存と育成に参加することになり、今回の報告内容となっている。

●今後の予定

- 11月20日「秋のホタル報告会」を行い、一年間の活動のまとめ・総括を行う。
- 11月～平成31年3月 内部東小学校のトンボ池の修復とホタル池作り
 - ◎7月 トンボ池の草刈りの実施
 - ◎8月 トンボ池の草刈りの実施
 - ◎9～12月 ホタル池作りとトンボ池の拡張作業
 - ◎1～3月 イノシシ対策（策作り）